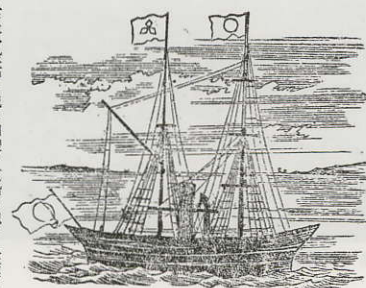


# わが国初の海外定期航路 (横浜～上海)の 第1船となる

文・山田廸生 (日本海事史学会副会長)

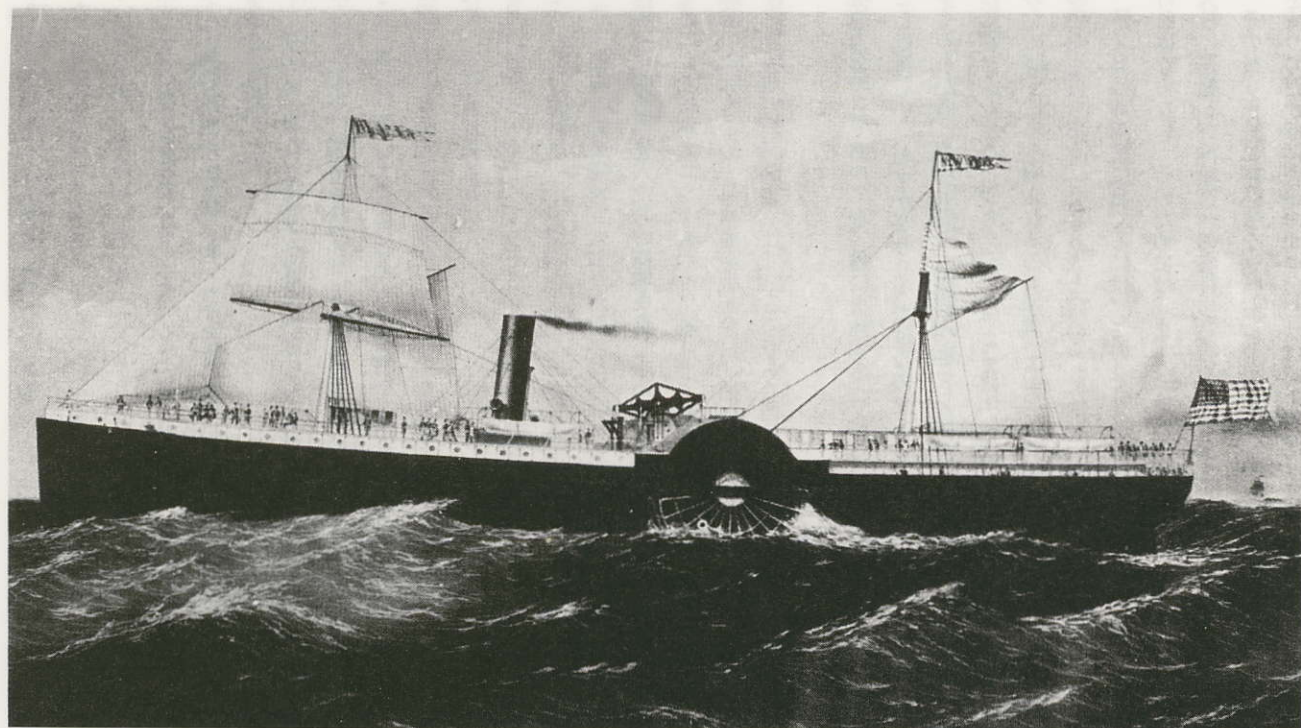


東京丸 新潟丸 金川丸 高砂丸

當社今般右ニ記ス四艘ノ汽船ヲ以テ上海横濱之間ヲ往復致サセ本月三日ヲ以テ横濱抜錨神戸馬關長崎ヲ經テ上海ニ至リ爾後八日即毎月水曜日上海横濱双方ヨリ發致致サセ候乗組人ハ練熟セル西洋人ニシテ航海之安心荷物取扱之嚴重ナルハ中ニ及ハス諸方等モ至テ清潔丁寧ナリ且支那西洋并我國人ヲ論セス都テ運賃之等級ニヨリテ一般之取扱ヒヨナスヘシ伏テ乞フ四方航客各港ニ掲ケ有之當社ノ旗章ヲ目的ニ御來臨御乗船アラント

大日本國東京第一大區拾五小區  
南茅場町拾八番地 三菱商會本店

上海航路開設時の三菱の『東京日日新聞』広告  
(日本郵船「我社各航路ノ沿革」より)



PM社のニューヨーク、のちの東京丸 (E.W.Smith「Passenger Ships of the World」より)

# 東京丸

◀ 主要目 ▶ 外輪汽船、木造、三菱汽船会社運航。総トン数2,217トン、長さ89.2メートル、幅12.7メートル、主機直立ピーム汽機、出力1,800指示馬力、速力13ノット。1864 (元治元) 年米ヴァンダービルト・ラインのニューヨーク New York として米ジェレマイア・シモンソン社 (Jeremiah Simonsen, New York) で建造。翌年、米国2社を経て米パンフィック・メイル社に移る。1874 (明治7) 年日本政府が購入し東京丸と改名。翌年郵便汽船三菱会社に払い下げ。1885 (明治18) 年合併にともない日本郵船に移籍。翌年売却。1888 (明治21) 年江田島で海軍兵学校の仮校舎として使用

## 台湾出兵時に明治政府が購入

明治の台湾出兵は、琉球人66人が台湾南部に漂着し、54人が原住民に殺害された事件が発端である。琉球は当時、独立王国として日本と清国の両方と交流していた。明治政府は清国に善処を求めたが、台湾の原住民は統治外であるとして応じなかったため、3千人の将兵を台湾に派遣し制圧することにした。1874（明治7）年のことである。

汽船が必要になった。所管する蕃地事務局長官の大蔵卿・大隈重信は、外国から汽船13隻を買い入れ、運航を三菱に委託した。

台湾出兵は戦闘行為がほとんどなかった。それにしても13隻は多すぎる。大隈は出兵を機に官有汽船を増強し、国内航路を席卷する外国船を駆逐するとともに、海外航路の開設をもくろんでいたのである。

翌1875年1月、出兵は終了。汽船は蕃地事務局から大蔵省に移された。同時に、官有汽船による上海航路開設が決定し、翌月、日本初の海外定期航路が開業した。運航は全面的に三菱汽船会社に委託された。

上海航路の基点は横浜とされた。週1回の定期で、汽船4隻（東京丸、新潟丸、金川丸、高砂丸）が就航した。途中の寄港地は、神戸、馬関（下関）、長崎の3港である。

2月3日に横浜を出航した第1船は「東京

丸」である。上海到着は同月11日であった。副社長の岩崎弥之助が社長代理として乗り込んだ。上海ではフランス租界の邸を借りて支店を開き、英語ができる弥之助が、各国の商館に航路開設を紹介してまわった。

前頁の新聞広告には、4隻の船名のほか、毎水曜日に横浜・上海双方を出航することなどが書かれている。上海側のターミナルは、黄浦江の南京東路寄りの河岸であった。

この年の9月、台湾出兵時の購入船13隻は郵便汽船三菱会社に払い下げられた。

## 前身は米国船「ニューヨーク」

「東京丸」は外輪推進の木造汽船である。鉄道と海運で財を成した米国の企業家ヴァンダービルトの持ち船「ニューヨーク」として、1864（元治元）年に建造された。建造所は彼の甥が経営するニューヨークのジェレマイア・シモンソン社である。高速で知られる北大西洋航路汽船「ヴァンダービルト」(3360総トン)もここで建造された。

両船の主機は、米国の河船によくみられる直立ビーム汽機である。甲板上に露出した菱形のビームが天秤ハカリに似ているので、日本では「天秤船」と呼ばれたらしい。

翌年、米アトランティック&パシフィック汽船会社、米アトランティック・マイル汽船会社を経て、米パシフィック・マイル汽船会

社（PM社）の手に渡った。航路はニューヨーク〜コロン（パナマ）と思われる。

PM社がサンフランシスコ〜横浜〜香港航路を開設したのは、1867（慶応3）年1月である。翌年1月には横浜〜神戸〜長崎〜上海の支線を開設。「ニューヨーク」など数隻の木造外輪汽船が就航した。日本人船客と貨物を運ぶのが主目的であった。

そして1874年、台湾出兵のときに日本船「東京丸」と変わり、翌年開設された横浜〜上海航路の第1船となったことは前述のとおりだ。台湾出兵で買い入れた13隻のうち、木造外輪汽船は同船だけ。ほかはすべてスクリュー推進の鉄製汽船であった。上海航路開設時のほかの3隻も台湾出兵時の購入船で、いずれも鉄製汽船である。

なぜ「東京丸」のような旧式の木造船がわが国初の海外定期航路である横浜〜上海航路に投入されたのか、筆者は理解に苦しむ。しかも同船は、1883（明治16）年まで8年間も上海航路で稼働しているのだ。

1885（明治18）年、三菱・共同の合併にともない日本郵船に移籍。翌年に売却された。その後、1888（明治21）年に海軍兵学校が東京築地から江田島に移ったとき、島に係船し仮校舎となった。山高五郎氏のスケッチによると、汽機は撤去され、船体だけの姿になっている（『図説日の丸船隊史話』）。